

平成31年度 小浜市立加斗小学校 経営方針

(まずは)

【小浜市教育方針】

- ・食育文化都市の創造
- ・郷土を愛する心の育成
- ・新しい時代を生き抜く人材づくり

(そのために)

◆不断の授業改善を積み重ねる

- ・少なくとも学力を保障（成果は才能ではなく習慣的な姿勢と基礎的な方法による）
→習熟度別課題を常に用意してあるか？（発展プリント、ヒントカード、具体物）
→課した宿題をきちんと見ているか？（赤ペンでチェック！花マル）
- ・教師と子どもたちとのやりとりを通じて、考えさせ、発表させ、比較させ、上達させていく。
- ・そのための切り返し（質問）のスキルアップの研究

◆3S学習の推進

- ・雲浜小学校の研究活動への協力・参加と授業力アップ研修を通した3S学習の充実

◆学力と人格の一致をめざす

- ・授業は「授業そのもの」と「人間関係」から成立する。この二つの要素は不岐のもの。
- ・「主体的な学び」「子ども中心の授業」≡「焦点化→追求」の授業のあり方を目指す。

(全体としての目標は上記だが、個々の資質・環境には違いがあるので)

◆質的な違いに対して、量的、方法論的に対処していくのが教育である。

- ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を（特別支援教育の視点から）
- ・強みと興味・関心を伸ばし、自己有用感と自尊感情を培う。（人生を楽しむために教育はある）
- ・天から命を授かったものはみなよろし（優を競うはよし、されど劣を敗者とせず）
- ・学校サポートプログラム研修による児童理解の充実（さまざまな課題に対応できる教職員に）

(教職員にめざしてほしい姿は)

◆本気で子どもをかわいがる教職員

- ・それぞれの持ち味や得意分野を生かして、惜しみなく子どもたちに教える、与える。

◆自己研鑽に励み、日々改善を目指す教職員

- ・子どもに「考える力」をつけるためにはどうしたらよいかを、「毎日考える教職員」でなければそれは無理というもの。

◆地域での役割も果たし、信頼される教職員

- ・私たちの多くはあと数年で退職、それから20年は地域で生きていくことになるのです。

(校長としてめざす姿は)

◆「誠実に謙虚に」

- ◆「その一言」 その一言で励まされ その一言で夢を持ち その一言で腹が立ち その一言でがっかりし
その一言で泣かされる ほんのわずかな一言が 不思議に大きな力を持つ
ほんのちょっとの一言で <高橋系吾さんの詩>

◆視点の転換

- 困った子ども → 困っている子ども 子どもを変える → 環境を変える
なぜできない → 何かに困っている やる気がない → やり方がわからない

◆職員室のユニバーサルデザインに心がける。

- ◆地域の中はプロの宝庫。地域内外のネットワークに助けていただく。

1 誠実には

子どもたちにとって、最大の教育環境は、教師自身です。子どもたちは、1日の大半を学校で過ごすわけですから、私たち教師の影響力は大変大きいです。教師の何気ない一言が児童に影響を与えます。まさに高橋系吾さんの詩です。子どもたちの無限の可能性を引出し一人ひとりの個性の伸長につなげられるような言葉がけをしていきたいです。また、言葉だけでなく教師の行いも同じです。教師の言動を子ども達は、しっかり見えています。心の通い合う学校にしていきたいです。

気配り・目配り・心配り 「目を向け、耳を傾け、心に寄り添う」ことで、良い関係性が築かれます。

(1) 児童に対しても、(2) 保護者に対しても、(3) 地域に対しても、(4) 同僚に対しても、誠実な対応が大事です。

2 謙虚には

謙虚な人とは。謙虚とは、控えめで、つつましやかなさま。素直な態度で接するさまです。謙虚と素直は同義であり、松下幸之助氏の著書「素直な心になるために」では

- (1) 耳を傾ける 素直な心というものは、だれに対しても何事に対しても耳を傾ける心である
- (2) 全てに学ぶ心 素直な心というものは、すべてに対して学ぶ心で接し、そこから何らかの教えを得ようとする謙虚さを持った心である。
- (3) 価値を知る 素直な心というものは、よいものはよいものと認識し、価値あるものはその価値を正しく認めることのできる心である。

クラスの中には、思い通りに動いてくれない児童がいます。そんな時「○○さんは、そういう子だから、仕方ない。」と言ってしまわずに、その子からも学ぼうとする気持ちがあれば、いろいろなことが分かり、いろいろなものが見えてきます。指導力・授業力アップのためには、常に謙虚に人の話や助言に耳を傾け学ぶ姿勢とアンテナを高く持ち感性を磨くことが大切です。